

第 II 部

各論



I 施策の方向

第1章 生きがいつくりの推進

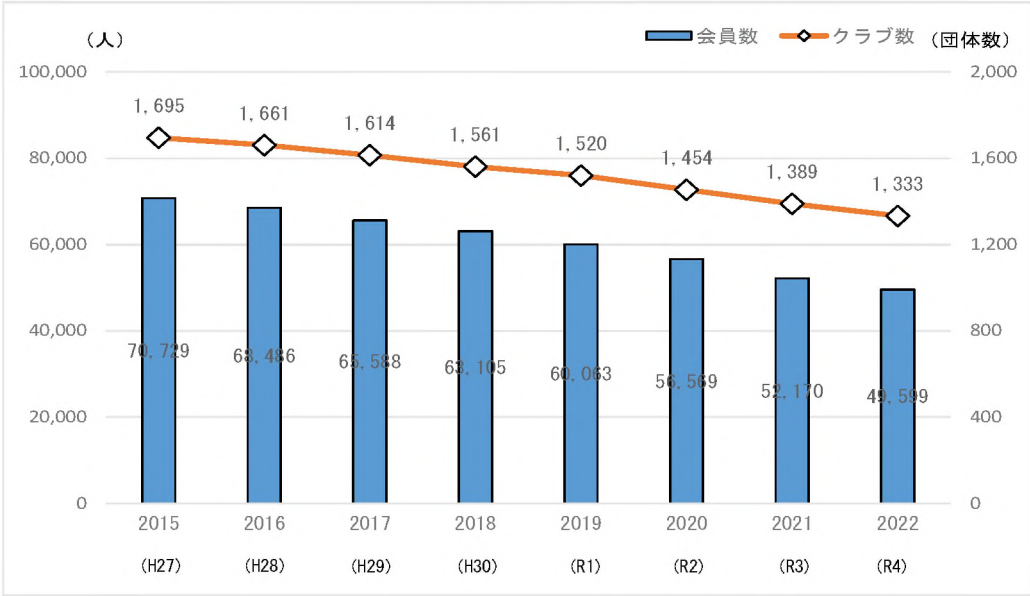
【基本的な考え方】
 高齢者が、心身の状態にかかわらず、生きがいを持って暮らしていくため、これまで培ってきた知識や経験を生かし、自己実現が図られるよう、多様な社会参加の促進や就業機会の確保、学習機会の提供に努めます。

1 社会参加の促進

現状と課題

- 急速に高齢化が進展する中、「支えが必要な人」というこれまでの高齢者像を変え、地域活動や就労への意欲を持つ高齢者には、社会の支え手として活躍してもらう「生涯現役社会」の実現が求められています。このため、高齢者が生きがいを持って積極的に社会参加できる環境づくりを進めていく必要があります。
- 老人クラブは、地域を基盤とする高齢者自身の自主的な組織であり、地域のニーズに応じた様々なボランティア活動等を実施してきました。近年、団体数、会員数とも減少していますが、地域社会づくりの担い手として欠かすことのできない組織であることから、加入促進活動をはじめ、老人クラブが行う活動を支援する必要があります。
- 毎年開催されている全国健康福祉祭(ねんりんピック)では、全国から多くの選手団が集まり、文化・スポーツ等を通して、地域や世代を超えた交流が図られています。

老人クラブ数及び会員数の推移（各年度末現在の実績）

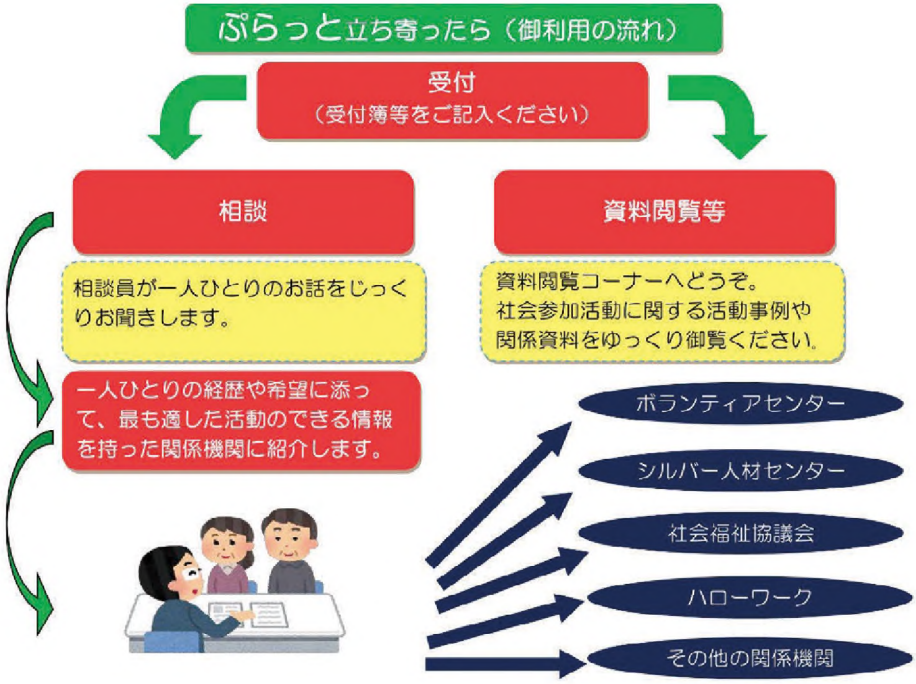


【県高齢対策課調べ】

施策の方向

- 「とちぎ生涯現役シニア応援センター」(愛称「ぷらっと」)の取組を通して、生涯現役社会の実現に向けた機運の醸成や地域における高齢者の社会参加の環境づくりを促進します。
- 生きがいづくり、健康づくり、地域づくりを目指して行っている老人クラブの多様な活動を支援するとともに、老人クラブの組織強化等を図るため、(一財)栃木県老人クラブ連合会が行う活動を支援します。
- 高齢者の文化・スポーツ等を通して、世代間の交流や生きがい、健康づくりを促進するため、引き続き「ねりんピックとちぎ」を毎年度開催するとともに、「全国健康福祉祭」に本県選手団を派遣します。

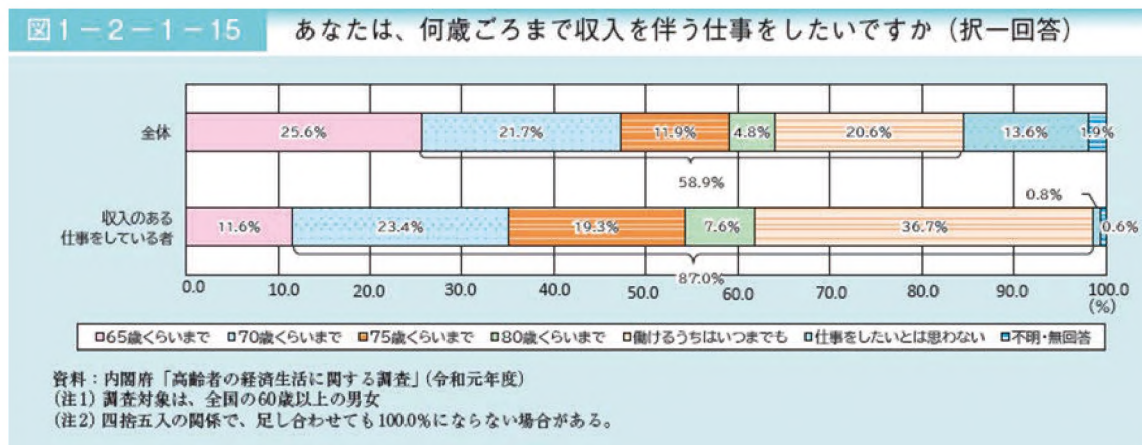
とちぎ生涯現役シニア応援センター「ぷらっと」の仕組み



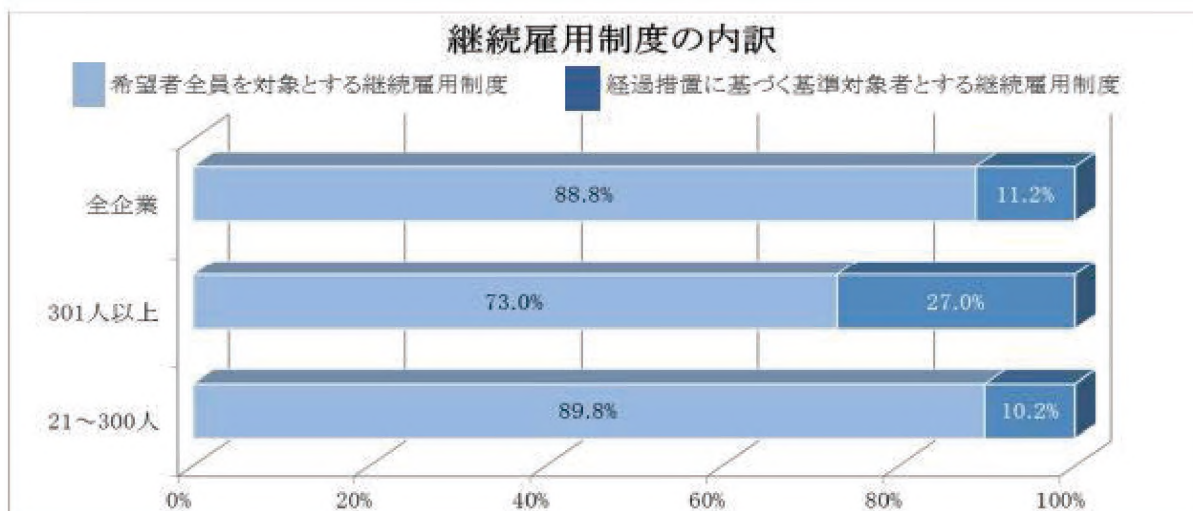
2 就業機会の確保

現状と課題

- 仕事をしている高齢者の約4割が「働けるうちはいつまでも」働きたいとの意欲を持っており、「70歳くらいまで」もしくはそれ以上との回答と合計すると、約9割が高齢期にも高い就業意欲を持っています。
- 希望者全員が65歳以上でも働ける企業等の割合も、年々増加傾向にはありますが、年齢に関わりなく働くことができる企業の普及等に向けた取組をさらに推進する必要があります。
- シルバー人材センター⁴は、高齢者への多様な就業機会の提供を通じて、地域社会の福祉の向上や活性化に貢献していますが、近年、会員数及び契約金額ともに減少傾向にあります。会員数や契約金額の増加に向け、新規就業分野の開拓や会員を対象とした技能講習の充実等に努める必要があります。



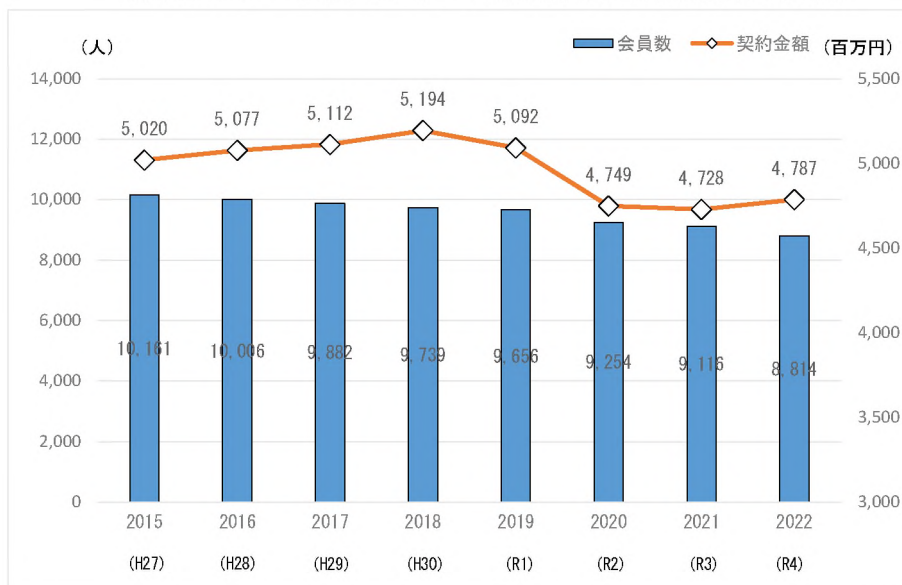
【「令和5年版 高齢社会白書」（内閣府）】



【栃木労働局調（令和5（2023）年6月1日現在：65歳までの継続雇用確保措置のある企業の状況）】

⁴ 高齢者（60歳以上）の希望に応じ、臨時的かつ短期的な就業等の機会を確保し、その就業を援助して、生きがいの充実や社会参加の促進を図ることを目的とする公益法人です。

県内シルバー人材センターの活動状況（各年度末の実績）

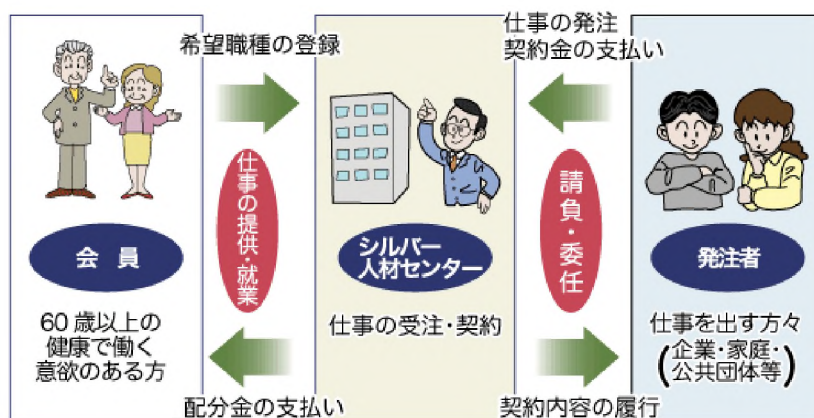


【県高齢対策課調べ】

施策の方向

- 「とちぎジョブモール」において、再就職に向けたセミナー等を開催するとともに、キャリアカウンセラー⁵による就業相談を実施することにより、就業意欲のある高齢者等を支援します。
- 栃木労働局や独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構栃木支部等と連携し、年齢に関わりなく働くことができる企業の普及に向けて、企業に理解と協力の呼びかけを行うとともに、高齢者の希望に応じた就業機会の確保に努めます。
- 新たな就業分野の開拓、会員の技能向上を目的とした講習会の開催等を通じて、市町のシルバー人材センターへの助言や指導を行う（公財）栃木県シルバー人材センター連合会の活動を支援します。

シルバー人材センターの仕組み



⁵ 個人の適性や職業経験等に応じて、自らが職業生活を設計し、これに即した職業選択や職業訓練等の能力開発を効果的に行えるよう、相談や支援を担う人材です。

3 学習機会の提供

現状と課題

- 「とちぎ県民カレッジ」等において、県や市町の各施設、高等教育機関等で開催されている講座やセミナー等の情報を総合的に提供しています。
- 「県生涯学習ボランティアセンター」等において、学習活動やボランティア等に関する相談を実施しています。
- 「シルバー大学校⁶」では、入学当初から地域活動に関する学習や交流の輪を広げる学習等を実施し、卒業生も含めて、大学校で学んだ知識や経験を活かした活動を行っていますが、市町や既存の団体・組織と連携し、さらに多様な分野で活躍することが期待されています。

施策の方向

- 「とちぎ県民カレッジ」等において、高齢者の「生きがいづくり」や「仲間づくり」につながるよう、ニーズを捉え、質の高い学習機会の提供を図ります。
- 「とちぎ生涯現役シニア応援センター」（愛称「ぷらっと」）と「県生涯学習ボランティアセンター」等との連携を推進し、相談者のニーズに合わせた学習活動やボランティア等に関する情報提供の充実を図ります。
- 「シルバー大学校」において体系的な学習機会を提供するとともに、地域活動団体との交流会や卒業生による活動紹介等を通して、在校生及び卒業生が市町や老人クラブ等の団体・組織とともに行う活動が一層進むよう支援を行います。
- 「シルバー大学校」の公開講座や課外授業を充実させるとともに、地域活動事例等についてインターネットを通じて紹介するなど、その情報発信機能の強化を図ります。
- 国民の間に高齢者の福祉への関心と理解を深め、高齢者が自らの生活の向上に努める意欲を促すことを目的に設けられた、9月15日から21日までの老人週間において、65歳以上の高齢者に対し、県立文化施設等を無料開放します。

【 評価指標 】

項目	現状値	目標値
高齢者の社会貢献活動参加率	54.9% (2023年)	上昇を目指す
高齢者の就業率	4.0% (2022年)	6.0%

⁶ 地域社会の活性化を促す人材を養成することで、高齢者が健やかで生きがいをもって暮らせる地域社会を築くことを目的に、県内3か所に設置された県の施設です。県内在住の原則60歳以上の方を入学対象としています。